

平成22年11月29日

特 殊 報

長崎県病害虫防除所長

平成22年度病害虫発生予察特殊報第3号

1 病害虫名 チビクロバネキノコバエ

2 学 名 *Bradysia difformis* Frey

3 発生作物 いちご

4 発生場所 西海市西彼町

5 発生確認の経過

- (1) 平成22年10月、西海市西彼町の高設栽培いちご(2圃場、20a)の圃場の一部で、花房及び新葉が黒変する症状が認められた(写真1、2)。黒変した部位には白色半透明の幼虫が寄生・食害しているのが確認された(写真3、4)。
- (2) 本幼虫及び羽化した成虫は、農林水産省神戸植物防疫所によりチビクロバネキノコバエと同定された(写真5)。
- (3) 本虫はウリ科、サトイモ、テッポウユリ、カーネーションなどで全国的に発生している。いちごについては、三重県(平成10年)、長野県(平成16年)でロックウール培地を使用した養液栽培で地下部を中心とした被害が発生し、特殊報が発表されている。

6 形態および生態等

(1) 形態

ハエ目クロバネキノコバエ科の昆虫で、成虫は雄が体長1.8~2.1mm、雌が1.9~2.3mm。頭部は黒色、胸・腹部は暗褐色、翅は褐色を帯びた透明。幼虫は体が白色半透明で頭部は光沢ある黒色、老熟すると体長約4mmになる。

(2) 生態

野外の農地、雑草地で年間発生する。成虫は有機物に誘引され産卵する。幼虫は多湿を好み、半分腐植化した有機物をえさとする。本来は雑草の根や茎の腐った部分で生活し、生きた組織で発生することはほとんど無い。まず肥料や未熟堆肥などの有機物に発生し、大量に発生した幼虫の一部がその後作物の地下部や地際に接した部分(いちごでは根やクラウン部)を加害することがある。25℃では約15日で1世代を経過する。

(3) 被害作物

イチゴ、ナス、キュウリ、メロン、ヤマノイモ、サトイモ、ユリ、リンドウ、カーネーション、ペゴニア、トルコギキョウ、パンジー等

7 防除対策

- (1) いちごのチビクロバネキノコバエに登録のある農薬はない。
- (2) 有機質資材の施用は成虫の誘引や産卵を促すので、完熟堆肥を適正に施用するなど、圃場内外の衛生に留意する。

8 その他

チビクロバネキノコバエは *Bradysia agrestis* Sasakawa とされていたが、Menzel ら(2003)によって *Bradysia difformis* Frey と同種であるとされた。

9 参考文献等

Menzel et al. (2003): *B. difformis* and *B. ocellaris*. New Records for the Neotropics. *Annals of the Entomological Society of America*.96(4):448-457.

笹川 満廣・赤松 学(1978):ハウス栽培植物の新害虫チビクロバネキノコバエについて.京都府立大学学術報告 農学.第30号

農業総覧 病虫害診断防除編(農文協)第2 - 巻,83-85



写真1 被害株



写真2 被害花(左)と健全花



写真3 花房を加害する幼虫(1)



写真4 花房を加害する幼虫(2)



写真5 チビクロバネキノコバエ成虫

病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県病虫害防除所 TEL：0957-26-0027